

☐ [Generate Collection](#)

L7: Entry 5 of 12

File: JPAB

Jun 30, 1998

PUB-NO: JP410175815A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10175815 A  
TITLE: ENZYMIC COSMETIC

PUBN-DATE: June 30, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SHIGA, TAKUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SHIGA YOKO

APPL-NO: JP08359576

APPL-DATE: December 17, 1996

INT-CL (IPC): A61 K 7/00; A61 K 7/48

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prepare an enzymic cosmetic, highly active and safe for skin without requiring the isolation of only an enzyme by including a freeze-dried fermented soybean powder and/or a freeze-dried Koji (yeast) powder for a food the rein.

SOLUTION: This enzymic cosmetic is prepared by mixing (A) a freeze-dried fermented soybean powder and/or a freeze-dried Koji powder for a food (e.g. the powder obtained by freeze-drying pasty fermented soybean produced from a soybean flour and then powdering the pasty fermented soybean) with, as necessary, (B) an ingredient, e.g. kaolin, magnesium silicate, dehydroacetic acid, propylene glycol, magnesium silicate or a perfume. The cosmetic is, e.g. a powdery cleansing preparation. Water can be added to the powdery cleansing preparation to provide a pasty form, which can be used as a cosmetic.

COPYRIGHT: (C) 1998, JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-175815

(43)公開日 平成10年(1998) 6月30日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

K

W

7/48

7/48

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 2 頁)

(21)出願番号

特願平8-359576

(71)出願人 000180645

志賀 洋子

静岡県静岡市緑が丘町13-1番地

(22)出願日

平成8年(1996)12月17日

(72)発明者 志賀 拓夫

静岡市緑が丘町13-1番地

(54)【発明の名称】 酵素化粧品

(57)【要約】

【課題】従来、化粧品に利用される酵素類は、その多くが微生物起源である。その為、安全性から生産系から生成酵素を完全に単離する必要があり、高コストの原因となる。生産上の、使用上の安全性にも問題が多い。特に粉末での利用は身体的安全性から使用出来ない。

【解決手段】食品である納豆及び食品用の麹の豊富な酵素に着目し、その凍結乾燥粉末の単独又は組み合わせで皮膚の生理的汚れ成分である蛋白質、脂肪などを除去する事を考案し問題を解決した。

1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】凍結乾燥した納豆粉末及び又は凍結乾燥した食品用麴粉末を配合する事を特徴とする酵素化粧品

## 【発明の詳細な説明】

〔産業上の利用分野〕従来酵素を配合した化粧品は多い。しかし原料酵素が取扱い安全面、安定性、使用安全性に問題があり、その多くは安定性が悪いにも関わらず水溶液として流通し、使用されている。又、そのコストも大きい。凍結乾燥した納豆、麴粉末は蛋白質、脂肪、繊維素分解酵素を多く含み、人皮膚脂質及び角質剥離物を良く分解し、皮膚に安全、かつ安定であり、粉体での取扱いも安全である。そのコストも低廉である。したがって、その化粧品への利用は従来に無い広い用途を提供し産業上の利用分野は大きい。

〔従来の技術及び発明が解決しようとする課題〕従来、化粧品には各種起源の酵素類が皮膚表面の汚れ落としとして使用されて来た。しかしながら、これら酵素は酵素自身の製造、濃縮、粉末化に於いて、目、皮膚にたいして強度の刺激要因となり、環境面に問題を有している。安全性から酵素産生の微生物から単離する必要がありコスト的にも高くなっている。化粧品への利用もこれらの問題を避けられず水溶液で扱われ、安定性の優位性にも関わらず、粉体での利用は殆ど無い。又、安全性、安定性、コストから十分有効な配合例は見られず、界面活性剤に代って酵素だけで皮脂汚れを取り除く製品は無い。

〔課題を解決するための手段〕これらの問題点を解決し、低コストで安全に化粧品に配合出来る酵素原料を研究し、発明者は凍結乾燥粉末納豆及び又は凍結乾燥粉末麴の利用開発を考案するに至った。発明者は既に、納豆及び又は食品用麴を利用する事を特徴とする、繊維上の血液汚れ洗浄剤（特願平8-238320）を出願している。この発明も凍結乾燥納豆、麴に含まれる豊富な蛋白質、脂肪、繊維素分解酵素の利用により問題点を解決する事が出来た。本発明は酵素だけを単離する必要もないので、低コストでかつ高活性の粉体が安全に得られ、利用出来る

## 【実施例】

## 実施例1. 粉末洗顔料

黄な粉より製造したペースト状納豆を凍結乾燥し、元の粉体に戻し、これを酵素源として使用する

## 処方例

1. 黄な粉納豆	10
2. カオリン	80
3. 珪酸マグネシウム	6
4. デヒドロ酢酸	0.25
5. プロピレングリコール	2.7
6. ステアリン酸マグネシウム	0.1
7. 香料	0.05

1~7の原料を混合して製品とする。化粧品として使用する時は適量の水を加え、ペースト状として皮膚に塗る。30分後水洗する。

## 実施例2. 液体洗顔料

大豆麴を凍結乾燥し、微粉碎した豆麴粉末酵素を酵素源として利用する

## 処方例

1. 豆麴粉末	5
2. 炭酸マグネシウム	2
3. 1、3ブタンジオール	30
4. ソルビン酸	0.2
5. エチル・パラベン	0.2
6. 香料	0.05

7. 精製水で100とする

本品をそのまま、顔面皮膚に薄くのばす、30分経過後水洗し洗い流す

## 実施例3. パック

米麴を凍結乾燥後、微粉碎して利用する

## 処方例

1. 米麴粉末	5
2. 納豆粉末	5
3. 亜鉛華	5
4. 炭酸マグネシウム	10
5. ポリビニルアルコール	2
6. ポリビニルピロリドン	1
7. エチルアルコール	5
8. エチルパラベン	0.2

9. 精製水で100とする

5. 6は予め一部の精製水で膨潤させ、加熱して溶解して使用する

1, 2は混合系が40℃になったら加え、良くかき混ぜ製品とする

40 本ペーストを顔に塗り、成膜化しパックとし使用する